「超巨大ブラックホール研究推進連絡会」 第2回ワークショップ 2014.11.03-04@筑波大



中間赤外線と可視光線を併用した AGN/銀河研究



愛媛大学 宇宙進化研究センター 鳥羽 儀樹



長尾 透、今西 昌俊、上田 佳宏、後藤 友嗣、大井 渚、大薮 進喜、 青木 賢太郎、松原 英雄、稲見 華恵、寺島 雄一、川口 俊宏、 Michael Strauss

「超巨大ブラックホール研究推進連絡会」 第2回ワークショップ 2014.11.03-04@筑波大



HSCとWISEを併用した 成長途上期ブラックホール探査準備



愛媛大学 宇宙進化研究センター 鳥羽 儀樹



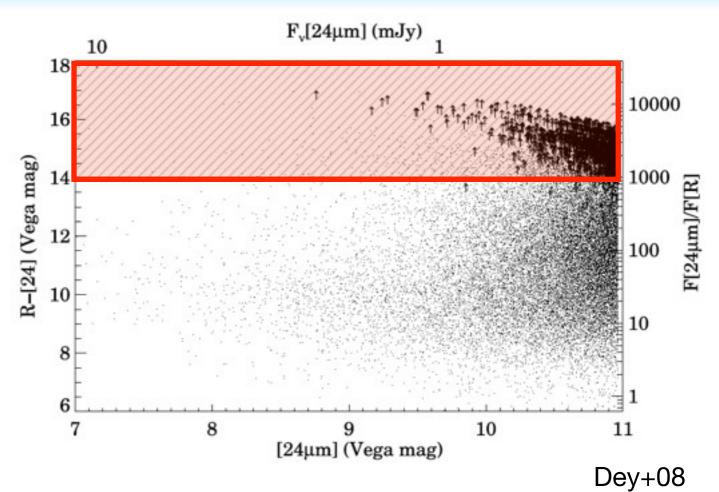
長尾 透、今西 昌俊、上田 佳宏、後藤 友嗣、大井 渚、大薮 進喜、 青木 賢太郎、松原 英雄、稲見 華恵、寺島 雄一、川口 俊宏、 Michael Strauss

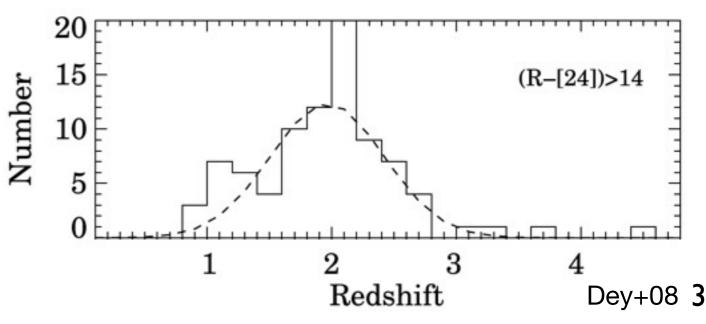
Dust Obscured Galaxies

- R [24] ≥ 14 (vega mag)
 - ・ 赤外線で非常に明るいにも関わ らず、可視光線で非常に暗い天体
- 高赤方偏移天体 (z~2)
 - ~100個のDOGs のNear-IR および Mid-IR 分光フォローアップから z=1.9 ± 0.5 程度に存在すると考えられている

ULIRGs

全赤外線光度分布を見ると、ほとんどの天体が超高光度赤外線銀河(ULIRGs, L_{IR} ≥ 10¹² L_●)





2種類のDOGs

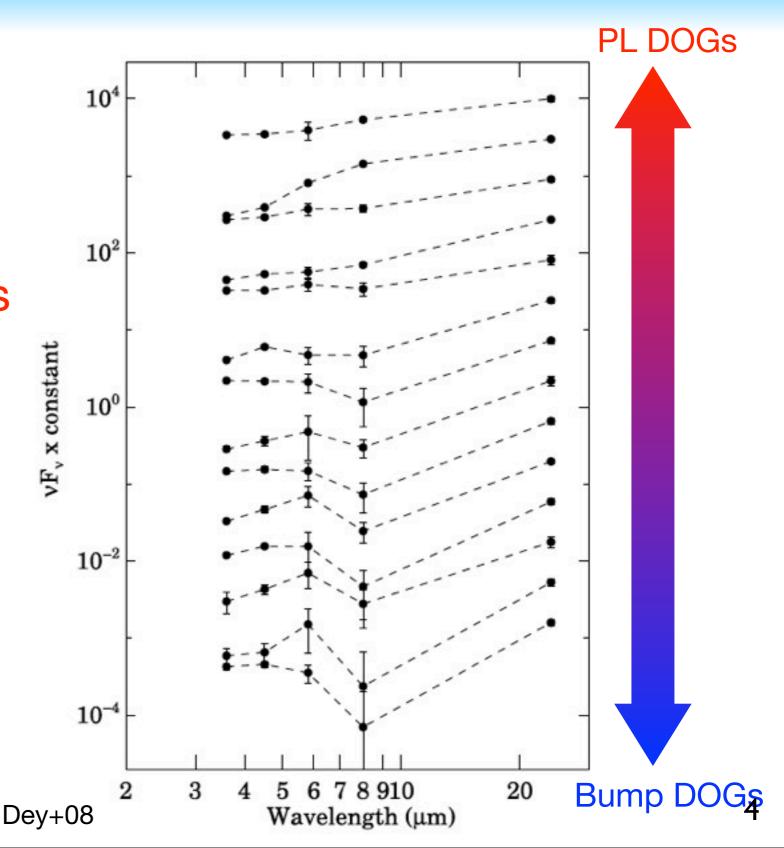
rest near-IR のSEDから DOGsを2種類に分類

Power-Law (PL) DOGs

- SEDがpower-law的
- AGN活動を示唆

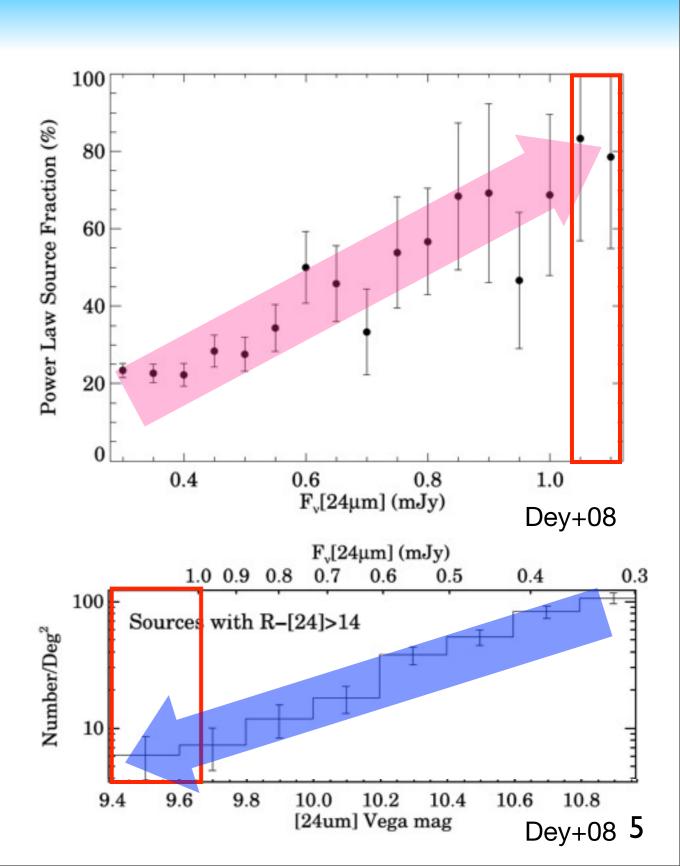
Bump DOGs

- rest 1.6 μm/zbump
- PAH が卓越
- SF活動を示唆



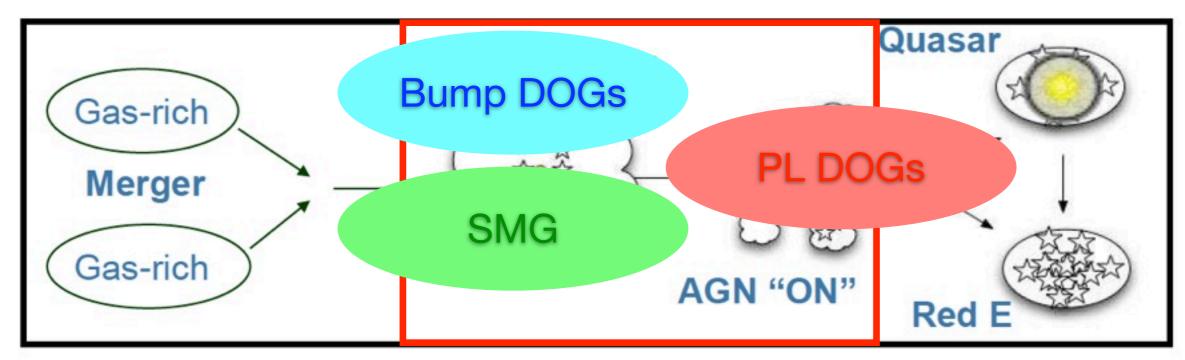
IR bright DOGs = AGN dominant DOGs

- 24 µm fluxが大きくなるほど、PL DOGs (AGN dominant DOGs) の割合が増加
- ただし、IR bright DOGsが 個数密度が小さく(a few/ deg²)、広域探査が不可欠



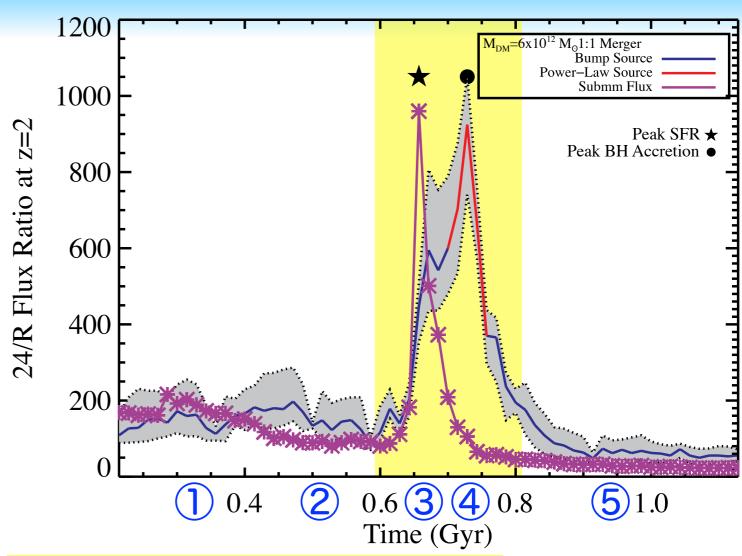
BHと銀河の共進化の観点から

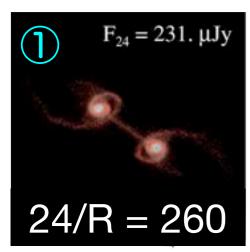
- Morphology (Melbourne+08, Bussmann+11) やClusteringの強さ(Brodwin+08) などから、DOGs (Bump/PL)や サブミリ銀河(SMGs)、そして Quasarとの関連性が 注目されている。
- Major mergerシナリオの立場でDOGsを概観すると、DOGsは星生成活動や、AGN活動が活発な(しかしダストに覆われているため観測困難な)システムである可能性を示唆。

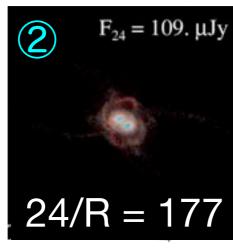


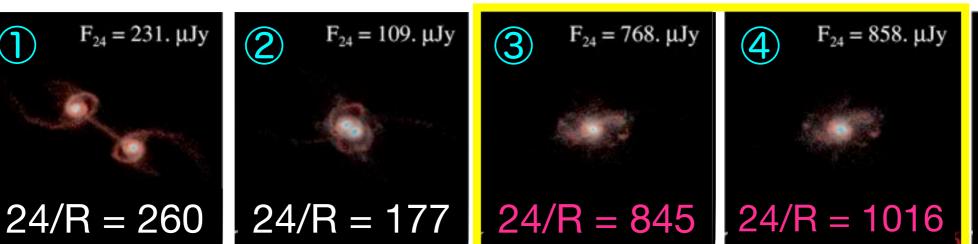
BHと銀河の共進化の観点から

- 数値シミュレーションから も、evolutionally sequence (gas rich disk merger => Bump DOGs/SMGs => PL DOGs)を示唆
- 特に PL DOGsは BH accretion のpeakの時期を見 ている可能性があり、成長 真っ盛りのBHが潜んでいるか もしれない









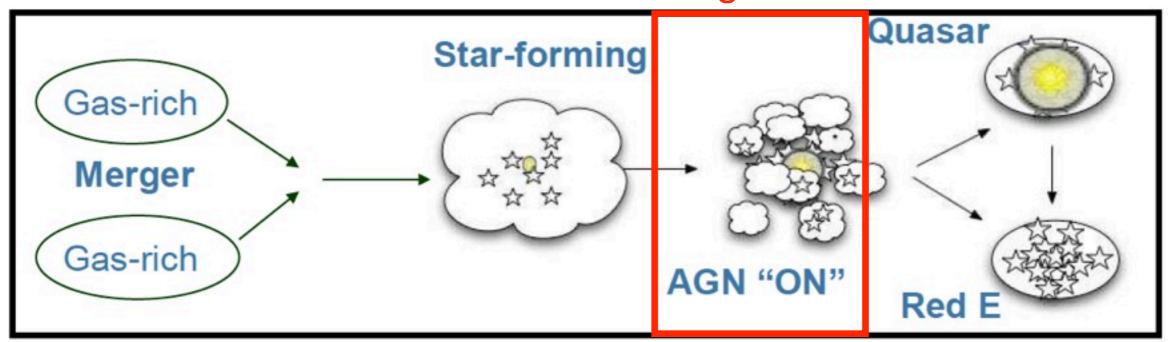




IR bright DOGs 探査の意義

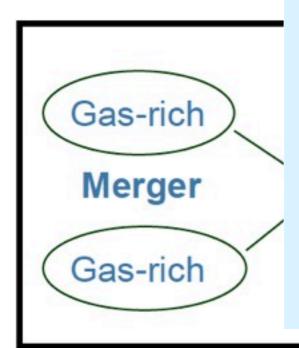
- DOGs \simeq optically faint ULIRGs at $z\sim2$
- IR bright DOGsのほとんどは、AGN dominant DOGsであることが期待
- Major merger シナリオを仮定すると、IR bright DOGs中には、形成途 上期のBH (low mass, high accretion rate)が潜んでいる可能性がある
- 銀河とBHの共進化に、これまでとは違った観点から制限を与えられる

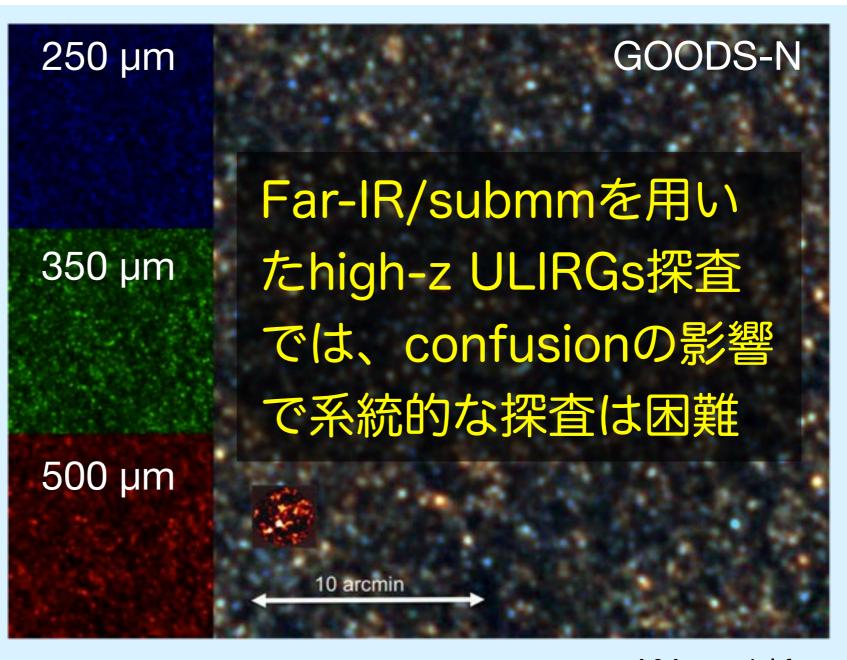
IR bright DOGs



IR bright DOGs 探査の意義

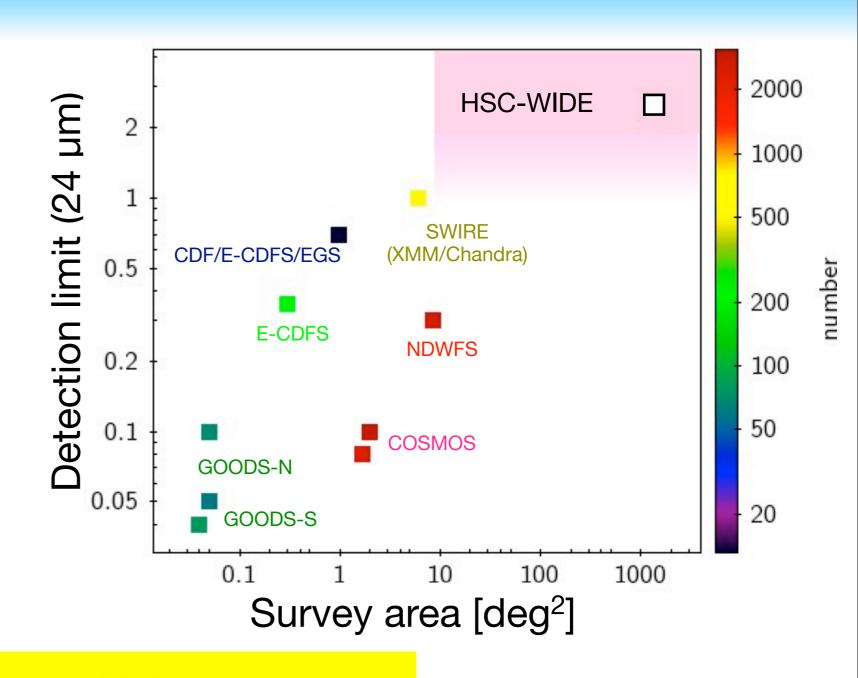
- DOGs ≃ optic
- IR bright DO
- Major merge
 上期のBH (love)
- 銀河とBHの共





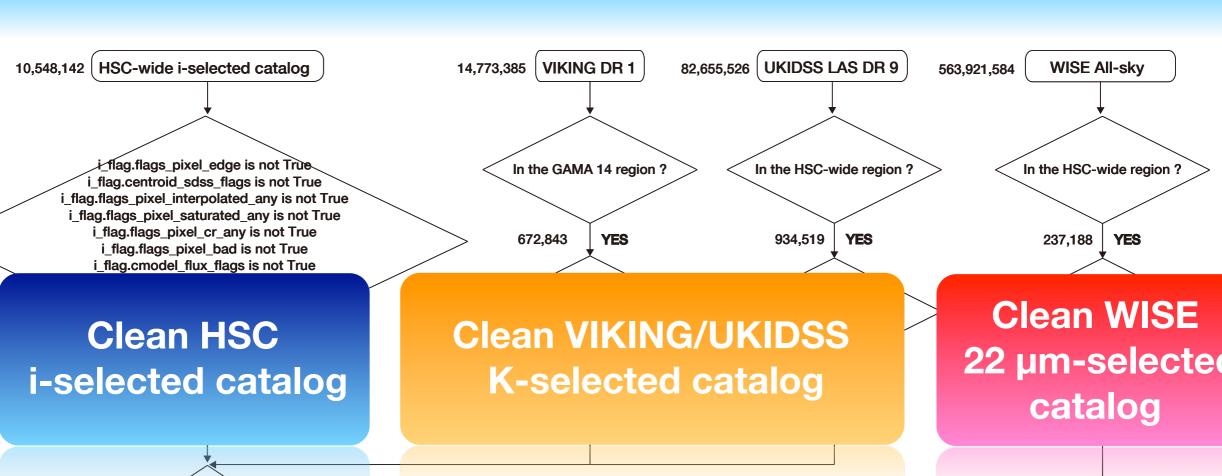
A&A special feature

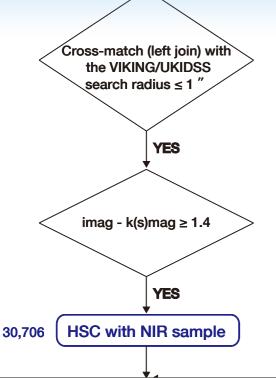
Previous Search for DOGs



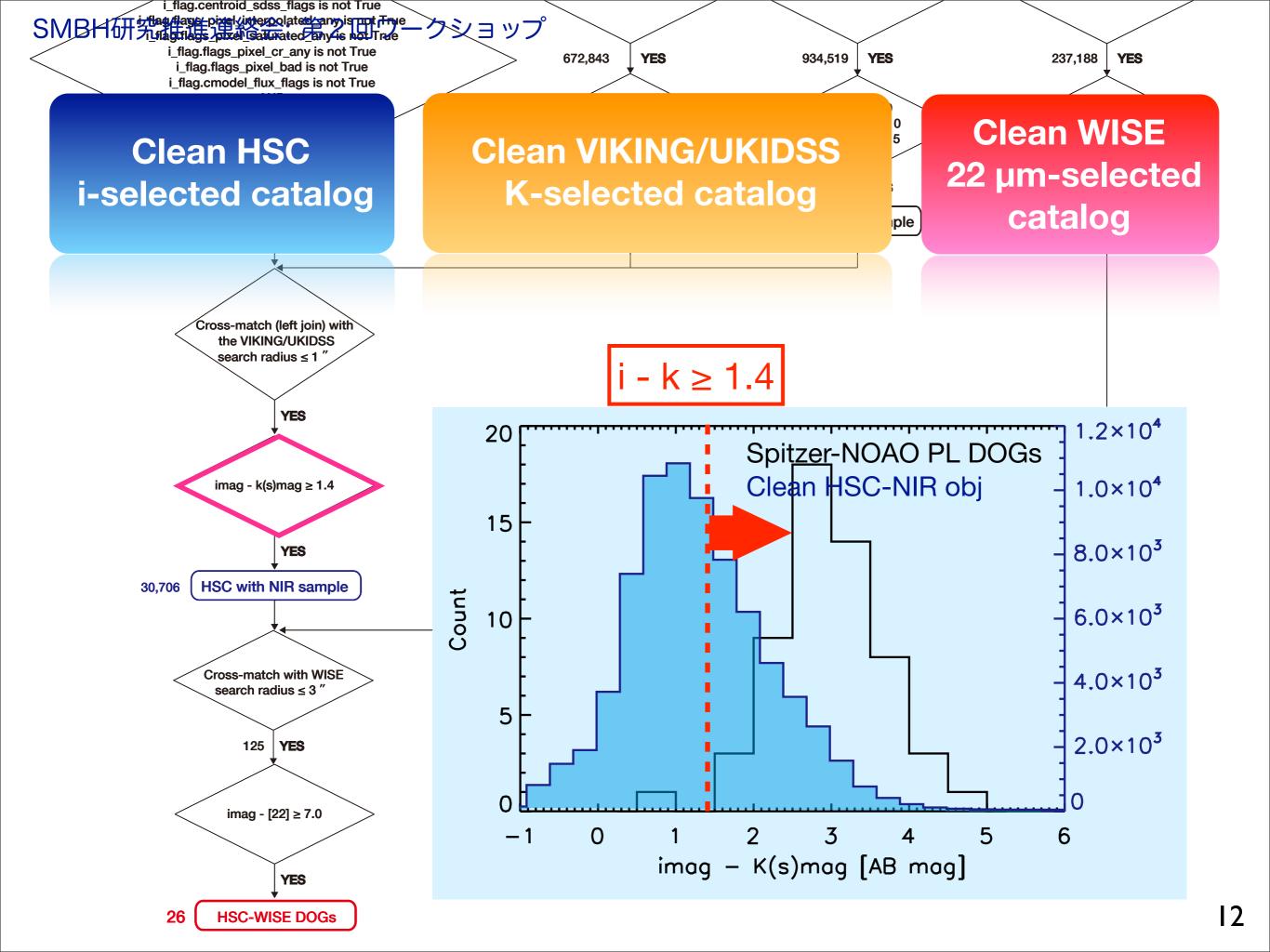
IR bright DOGs 探査という観点では HSC +WISE はユニークかつベストな手法

Sample Selection

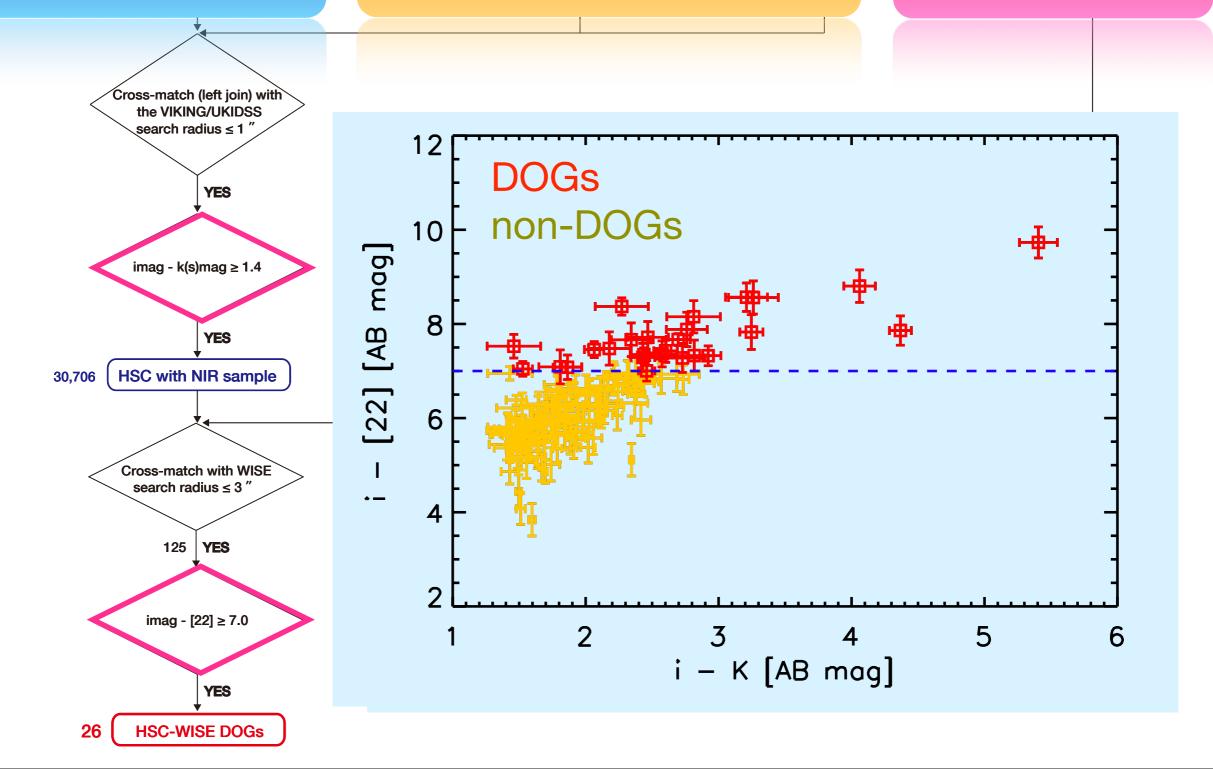




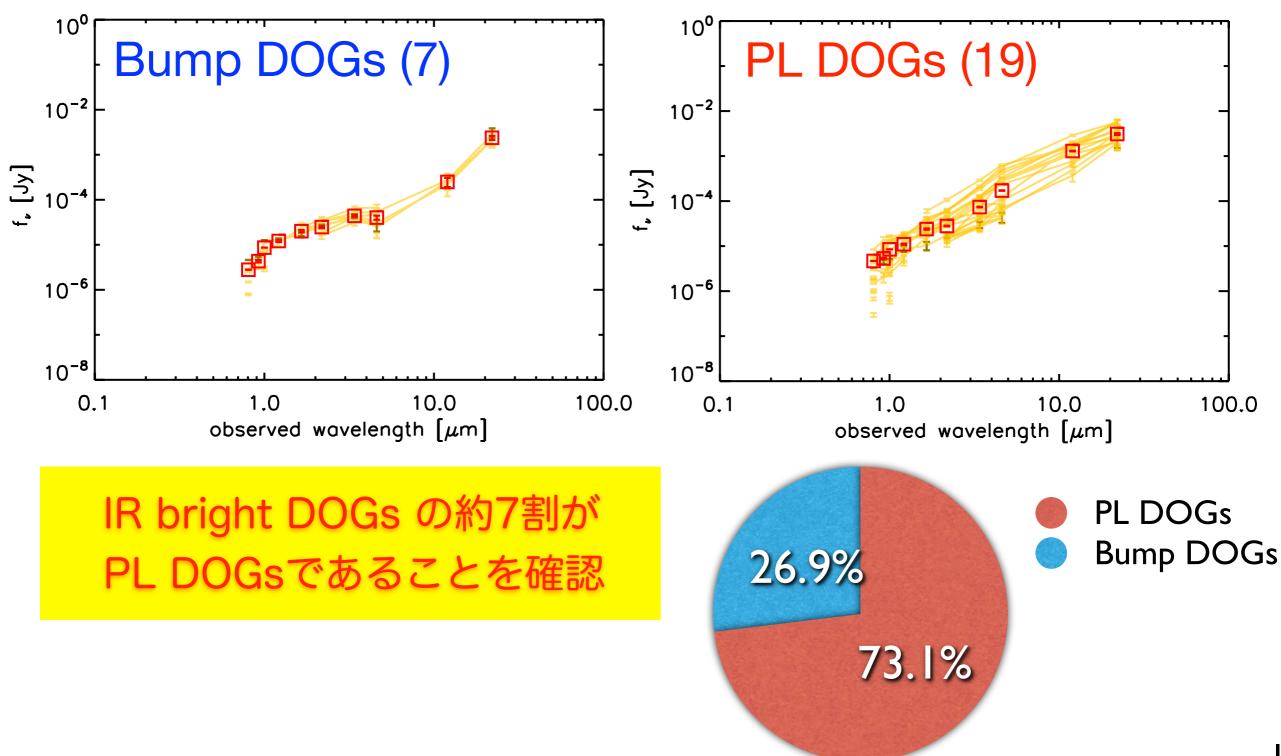
22 µm-selected



HSCとWISEを用いて26個のDOGsを選出

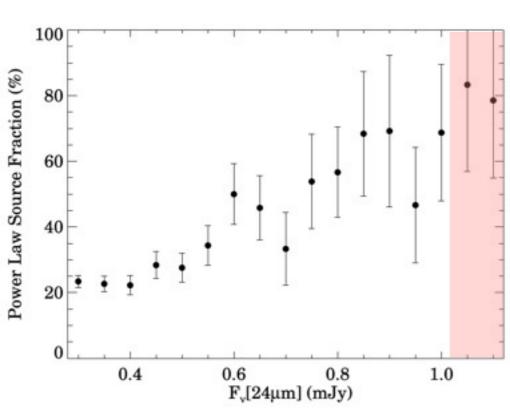


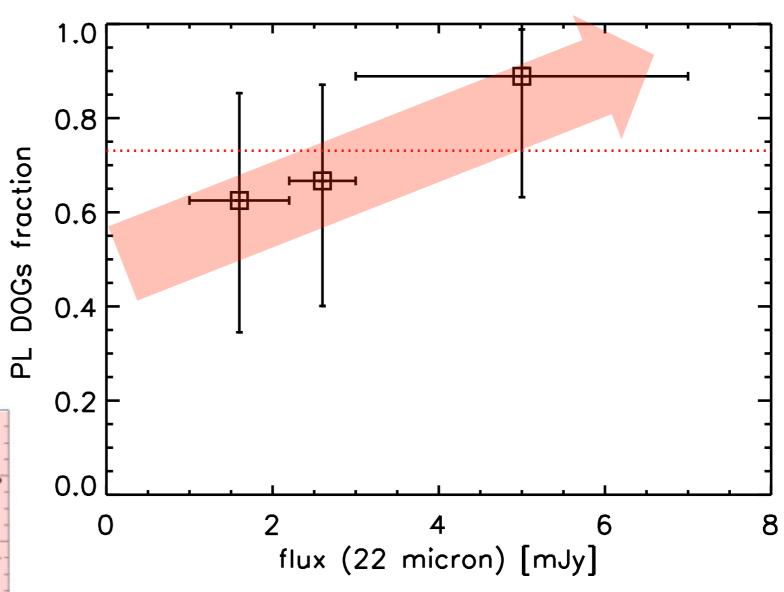
Composite SED for DOGs



PL DOGs fraction vs. 22 µm flux

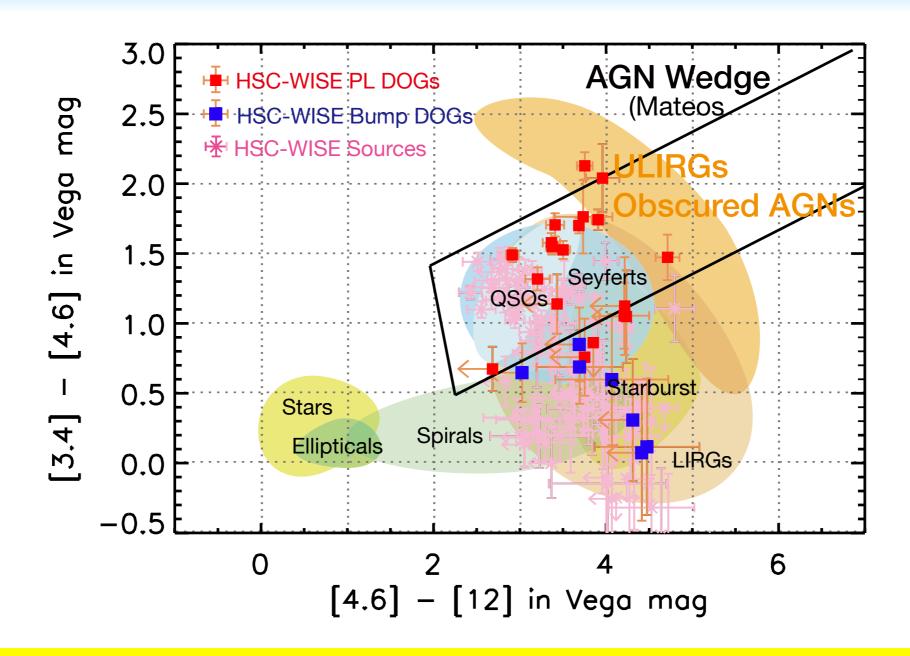
IRが明るくなるほど、PL DOGsの割合が増えて行く傾向を確認





Dey+08

WISE color for HSC-WISE DOGs



AGNの示すWISE colorとconsistent

Summary

- *
- HSC-wide (S14A, ~18 deg²)にWISEを併用することで、26個のIR bright DOGsを発見
- *
- このうち、約73% (19/26) がPower-law (PL) DOGs
- *
- IR (22 µm) fluxの増加とともに、PL DOGs の割合が増えることを確認 (先行研究とconsistent)
- *
- WISE のcolor-color diagram図上でも、PL DOGsがAGN dominantであることを示唆
- 26天体については、SINFONI@VLT に近赤外線分光フォローアップ提案を提出済み (PI: Y.Toba)
- 🍳 赤方偏移分布を仮定することで、大雑把に空間個数密度などを算出し、先行研究と 比較予定